

## 第2回第3次防府図書館サービス振興基本計画策定協議会 会議記録

□開催日時 令和7年7月16日（水）午前10時30分～正午

□開催場所 市役所8階 防府市文化センター

□出席人数 7人

□概 要 （発言要旨の文書表現は、簡略化している）

### ◎資料確認

#### 1.議題 「第3次防府市図書館サービス振興基本計画」（素案）について

##### 《事務局》

- ・3月7日の第1回の策定協議会の際に、防府市図書館サービス振興基本計画の策定の趣旨、骨子案について事務局から御説明し、皆様からも御意見をいただいた。
- ・今日の資料送付後に素案に係る修正箇所があり、資料「第3次防府市図書館サービス振興基本計画(素案)に係る修正箇所」を用意した。
- ・素案説明の前に、語句について説明。「こども」という表記について、本市では、令和7年6月1日より、特別な場合を除き、ひらがなの表記を用いることになった。特別な場合とは、法令に根拠があり用いる場合、また、固有名詞を用いる場合、他の語との関係で、「こども」以外の語を用いる必要がある場合。
- ・大項目の中の「こども」については、すべてひらがなとした。
- ・図書館イベントの「子ども読書フェスティバル」は、固有名詞なので、漢字のまま。

#### ○議題1「第3次防府市図書館サービス振興基本計画について」

##### 第1章から説明

###### 【計画の趣旨】

- ・図書館の簡単な歴史、市内全域サービスを目指す図書館像についての記述とした。市としては、令和3年3月に第2次防府市図書館サービス振興基本計画を策定し、今回計画の策定から5年が経つので、次期の計画を策定する。時代が急速に変化する中で、図書館サービスのさらなる拡充を図り、本市の教育文化の振興に寄与するものとなるよう、第3次計画を策定する。

###### 【計画の理念】

- ・第2次計画をベースとしつつ、現計画の成果と課題を踏まえ、第3次防府市図書館サービス振興基本計画を策定する。

###### 【位置づけ】

- ・資料のとおり、上位計画に合わせて、一体的な推進を図る。

###### 【期間】

- ・令和8年4月1日から令和13年3月31日までの5年間。

【対象】

- ・すべての図書館利用者

【計画とSDGsの関係】

- ・今回から、上位計画と同様に掲載することになった。現在、図書館の実務部分が具体的にSDGsのどれに該当するのかを整理中。

第2章 図書館サービス振興基本計画（第2次）における取組・成果

- ・第2章は第2次図書館サービス振興基本計画における取組・成果について大項目1から7までの大きい項目ごとに、主な取組や、関係しているデータ推移、また成果や関係する事柄がまとめている。
- ・成果や関係する事柄は、第2次サービス振興基本計画のもと、図書館が行っている事業について、毎年、図書館協議会の委員の皆様からいただいた評価や御意見等を参考に、事務局で作成した。

以上、事務局からの説明

【質疑応答・意見】

（委員）

- ・14ページの文章の2行目。留守家庭児童学級と学校図書館というのが、併記されているが、留守家庭児童学級には、直接支援をしていないので、文章を分けていただきたい。

（会長）

- ・大きな変化は、電子図書館サービスの導入とか、コロナ禍への対応も含めて、電子図書館サービスの導入とか、広報でSNSを使い始めたこと。
- ・もう1つ、生涯学習課の講座等が、ルルサス文化センターに移って、相乗効果が期待されるということが、大きな変化だったかと思う。
- ・4ページの一番下の「読み放題パック」について、注記を入れてほしい。
- ・6ページの表の上、「県内他市と比較しても多くはありません。」と書いてあるが、同規模自治体との比較だと思うが、県内他市の市民1人当たりの資料費の関係では、大差ない。
- ・8ページ上の表の一番下に、1日当たりの貸出冊数の下に、人口1人当たりの貸出冊数も入れていただいて、その空いた8ページの下の空いたところに、その推移の表グラフを入れていただくと良い。

（副会長）

- ・語句のことで、図書館職員と図書館員が混在しているので、それは統一したほうがよい。
- ・9ページの2行目は、適正な選書・収集・保存及び廃棄と書いてある。53万冊を超えている。きちっと適切に提供することができるよう、収集と保存はとても大事。私

自身は、廃棄は慎重にと考えているが、新鮮な資料を利用者に対して、提供していくということになれば、廃棄もせざるを得ないというようなこともあると思う。この辺の文言と第3章の初めの部分もちょっと気になる。

- ・11ページの6行目、「図書館職員が要請に応じて職員を派遣し、」誰が誰を派遣するかと思う。図書館ではないか。

- ・郷土児童文学作家「那須正幹さん」の表記について、「さん」をつけるのか、「氏」の方がいいのか。また那須正幹さんは、「さん」とかつけずに、森鷗外というような表記にするかだが、「氏」の方がいいと思う。

《事務局》

- ・「那須正幹さん」という表記は、イベントの時の題名。本人が先生と呼ばれたくないと生前おっしゃっていたということで、「那須正幹さん」という形になり、そのイベントのことを指している。表記については、再度、検討をする。

(副会長)

- ・イベント名ということであれば、「さん」のままかなと思う。

### 第3章 第3次計画における施策の方向と具体的な取組

(会長)

- ・第3章については委員の方々、お1人当たり、2、3分を目安にお気づき等をお願いしたい。細かい点は、別途事務局の方にお伝えいただき、聞いておきたいことや、取り上げてほしい点についての御意見、御質問をお願いする。

【各委員からの意見及び質疑応答】

(委員)

- ・グラフ資料や数値が出ていて、令和2年度からの変遷もよくわかる。
- ・市立の図書館と学校との繋がりとというのが、他市に比べて、大変細やか。普段の図書館の業務プラス、様々なイベントをされている。
- ・その業務量が多く、少し心配。

(委員)

- ・第2章の話に戻るが、防府図書館の貸出者数については、維持されている。コロナの時には、難しいところもあったと思うが、様々な努力をされて成果が出ている。
- ・中学校での防府図書館の利用については、学校司書を通して、図書を借りたりしているが、電子図書館の利用も考えられる。それらの取組は非常にありがたい。
- ・防府図書館と学校図書館が連携するのは、学校司書の勤務等もあるので難しさがある。しかし、防府図書館の活動が活発になって、それが、児童・生徒の読書活動の推進に繋がるのは非常にありがたい。
- ・地域の方の高齢化が進んでいるが、移動図書館の活用状況が、例えば小野地域でどのようになっているか気になる。

《事務局》

・今の学校との繋がり、図書館との連携づけをして、こどもたちに還元できるような何かについては、今後、検討していく。

・地域の高齢化と、移動図書館車との関係については、年報に、どれぐらい利用があるか掲載しているが、今回の計画には載っていない。今後、検討していく。

(会長)

・今も市立図書館と小学校の学校図書館はかなり密接かと思うが、中学校は確かに、なかなか難しい面がある。

(委員)

・中学校も読書活動推進の法律ができた時は、毎朝読書活動を行うなど、かなり積極的に取り組んだ。その後、いろいろな活動が入ってきたので、小学校ほどは時間が確保できていないのではないかと感じる。

(会長)

・中学校での調べ学習の時間で、図書館の紹介もしてほしい。

・今はタブレットがあり、それで済ませがちだと思うが、紙媒体の資料を参考にしながら、中学校でやっていただけるとよい。

(委員)

・18 ページ、「誰でも気軽に楽しく利用できる図書館」の取組の方向性のところで、2 つ目の「気持ちの良い接客を心掛け、利用者サービスに徹します」となっているが、この楽しく利用できる図書館を図書館員のサービスだけで賄う感じがする。まず利用しやすい書架。図書館も建ってから年数が経っており、障害のある方に配慮した図書館としては、背の高い書架である。障害者、高齢者が利用しやすいような配置になっておらず問題があるため、その辺を根本的に考える必要がある。設備の配置替えとか、インターネットコーナーの有効利用まで踏み込んでいけないかなと思う。

・22 ページ、最初の「学習ボランティア」という言葉は、今は学校での「学習支援ボランティア」と捉えているのではないか。図書館では、「学習ボランティア」を、どういう人たちと捉えているか。

・〔課題〕に、「共働き家庭」とあるが、今時点でこういう表現は少ない気がする。共働きが増えたから新しいボランティアができないのか、その辺の結論が出ない。

・22 ページ、最初に「障害のある利用者のためのボランティア」という言葉があるが、これは 7-(3)、ページで言うと 33 ページのところの障害者のためのボランティアの育成にまとめて書いたほうがよい。

(会長)

・蔵書が増えてきていて、書架もスペースがなくなってきている。開架でも、いっぱいなところがある。図書館も苦労されているのだろう。

(委員)

・18 ページの 4 行目、こどもから高齢者まで幅広い世代に、図書館が生活に役立つ施設であることを認識してもらうという課題を挙げている。実は、この 4 月から地域クラブとして発足した「図書館クラブ」の事務局を担当しており、館長に第 1 回目のオリエンテーションで館内を案内してもらった。図書館のクイズや、いろいろな工夫について話をされ、40 年近く図書館に出入りしている私も、初めて知ったことがあった。丁寧でわかりやすい説明で、すごくいい時間だった。こどもたちも本当にいい経験だったようだ。図書館のことを周知するようなツアーなど、希望者を募って、年齢に合わせながら定期的を開催するサービスがあればと感じた。

・例えば中学生、高校生は来館するが、本を借りないとか、利用が少ないということがある。中高生の授業の中では難しいと思うが、そのようなツアーがあると、利用につながると思う。

・高齢者へ周知するという部分で、各地域で「いきいきサロン」というがあるので、図書館には高齢者向けの紙芝居などがあるのだから、活用できるような働きかけを考えてはどうか。

・図書館員が度々出て行くと、図書館員のオーバーワークになるので、例えばそのボランティアの読み聞かせとつなぐとか、そういう形で地域の高齢者の集まりに、図書館が活用できるというアピールができるといい。

・中学校はとても忙しくて、学校図書館が活用できなかったり、時間が限られていたり、読書タイムといった時間も少なくなっていると聞いている。近くの中学校の学校運営協議会に出ているが、本を読むようになってから、すごい学力が伸びたという話を聞いた。今、スキルタイムの内容が様々で、読書をすることで学力もつくということもあると思う。

・学校の様子を聞くと、今は ICT 中心で、学校図書館の利用と分けて考えている感じがするが、ICT と、書誌媒体は両輪で、ICT も本もツールなので、どっちもうまく生かして活用するのが、必要だと思う。

・タブレットは、調べたいことだけがすぐ出てくるから便利だが、本はいろんなことがわかるというか自分が調べたこと以外のこともわかるからいいと言う子がいて、本とか新聞はそういう良さがある。そのことも頭に入れて学校図書館を活用していただくと思う。電子図書館も今、充実しているそうなので、学校図書館と連携されたらいいかと思う。

《事務局》

・今、図書館見学会の件が出たが、取組か、方向性かに入れられたらと考えながら御意見をお聞きした。

・「いきいきサロン」についても、図書館の活動をアピールさせていただけたらというところ。御意見として承る。

(会長)

・テスト期間には、市立図書館で自習する中高生は多い。ただ、比較的近い中学、高校なので、これをどう広げていくか。

(委員)

・この基本計画を前回5年前の基本計画と比べたら、大変わかりやすく書いてあると思った。語句の説明も最後にまとめてあるので、いちいち下を見なくても、切り取って読んでもよい。

・部活が移行になって、「図書館クラブ」が発足し、他の委員が、活動しておられるが、まだ始まったばかり。基本計画の中に期待とお願いを込めて取り上げられないか。

・地域文庫が、最近は貸出数が低迷しているという記載があったが、移動図書館車の巡回については、地域文庫の貸出数が減っても、それを補って継続すべき。高齢者は、地域の近いところで利用できることが、大変有意義になる。

(委員)

・他の委員から、中高生が、読書に触れる時間を取りにくいという話をお伺いして、小学校での図書館教育が、とても大事だなと実感した。小さい頃からの積み重ねで、本に慣れていると、中学校、高校になっても読む習慣がつくと思う。

・昨年、県の学校図書館大会が山陽小野田市であったが、資料の中に、現在の高校生の不読率(1か月に1冊も本を読まない割合)が50%以上、確か53%と聞いた。厳しいなという実感。小学校教育での積み重ね、本校でも週1、必ず朝の読書は入れている、読み聞かせのボランティアも、毎週1回来てもらっているし、図書委員会の活動もしっかり行っている。それを中高生で、同じようにやるのは確かに難しいと思う。例えば先ほど「図書館クラブ」があると聞いたので、そこで活動した中学生の目線を他の中学校に取り入れるなどといった、繋がるような活動があれば、さらに活発になるかなと感じた。

(会長)

・「図書館クラブ」については、先週の図書館協議会でも、話が出たが、「図書館クラブ」の会員である中学生の中から、図書館をサポートする生徒、また将来、図書館員になるような生徒が育っていくとよい。

・高校生についても近年、例えば、「図書館まつり」とか、「子ども読書フェスティバル」の際に、ボランティアとして参加してくれている。

《事務局》

・「図書館クラブ」については、図書館はできる範囲で、サポートをやっていきたい。

(委員)

・「図書館クラブ」を計画に上げたらというありがたいお話をされたが、「図書館クラブ」は、防府市の地域クラブの認定を受けているクラブなので、立ち位置は図書館の1つのサークルである。ここに上げるのはちょっと違う。

・28ページの5番、「様々な教育文化施設とのネットワークを進め」の項目で、高等学校との連携には、課題があると記述があり、高校との連携も考え、今ボランティアを募集したりしているが、防府市には特別支援学校もある。いろいろな障害者や高齢者にやさしいという項目にも関わると思うが、やっぱり特別支援学校とか、こども食堂なんかもあちこちでされている。そのような所で、ちょっと本を紹介するとか置くとか、いろいろなところに本が行き渡るといいと思う。先ほど言ったが、図書館の負担が増えないような方法でというのが前提。

(副会長)

・高校との云々というところで、ボランティアだけで高校生を引っ張ろうなんていうことは、やっぱりそれ自体考え方を変えたほうがよい。一緒に作り上げるというスタンスが必要。つまり、高校生も時間がなかなかない、忙しいとは聞いているが、お手伝いでは面白くない。企画をし、一緒に作り上げるという体験がいいと思う。

・このサービス振興計画を作るにあたって、これはアンケートか何かは実施されているか。いろんなところでは、結構あるがどうか。

《事務局》

・今回の計画について、図書館のアンケートというのは、やっていない。

(副会長)

・何か計画を作るときには、よくやっている。利用してない人の声を聞くことも必要だと思うので、次の計画のときはぜひお願いしたい。

・17ページ、書庫の狭隘、限界が近づいているという言い方が本末転倒だと思う。狭いから捨てるということではなく、廃棄基準はあると思うので、その辺ははっきりさせたほうがよい。

・次のページの「接客」という言葉について、「接遇」と思う。気持ちの良い接客というのが、どんなものかなと思って気になった。

・19ページ、代案がないが、「図書館に来館した」が、ダブっている感じがする。図書館から言えば、来る方が、利用者から言えば、行く方。ちょっと引っかかっている。

・20ページ、レファレンスでA Iを使うというのが出ているが、今度、図書館システムを更新されるのか。

《事務局》

・来年は、システム更新がある。

(副会長)

・県立図書館での導入が多いのだが、A Iを活用した図書館探索サービスをやっているところがある。お金はかかるが、もう5年後の次期計画だと、乗り遅れるような気がする。探したい図書の明確なキーワードがわからなくても、日常的な言葉や文章を入力することでA Iが利用者の意図をとらえて、それに関連するような図書を効率的に探してくれるシステム。防府市は、電子書籍も乗り遅れておらず、学校との連携も

進んでいるので、早々とそういうものを入れられたらと思う。A I の活用として、今回の計画の中ではレファレンスツールとして考えているようだが、それはそれとして。システム更新の際に、考えていただきたい。

- ・25 ページの段落の2つ目、「昔と比べて」と言われても、私の昔と高校生の昔は違うと思う。いつ頃のことを指すのか。

- ・27 ページの一番下にある言葉、「母国語」ではなくて「母語」。日本語を母語とするという書き方にすると、問題ないと思う。

(会長)

- ・第3次計画では、A I の導入が、大きな項目の1つになるかと思う。

《事務局》

- ・御意見いただいたA I については、来年、サービスの導入があるので、その辺りも検討しながらこの計画に入れるかどうかも含めて、検討する。

(会長)

- ・語句の訂正等はまた、出てくるとし、修正されると思う。

(委員)

- ・25 ページ「地域の歴史や文化を大切にするとともに」の項目で、郷土資料の収集や、デジタル化することに尽力しているとのことだが、こどもたちがふるさと学習をするときに、「のびゆく防府」とか、ふるさと読本「防府歴史・文化財読本」とかは、活用しやすい資料だが、その地域でないとわからないような資料はないかと言われ、とても困ったことがある。探したら、郷土の研究をしている方の、難しい字で書いたものが出てきたことがあるが、それをこどもに説明するのが大変だった。富海や右田地域は、こども向けのような冊子がある。こどもたちが調べるときにわかりやすい資料があれば、ふるさとのことを知り、ふるさとを愛する気持ちにも繋がると思う。特に計画に載せて欲しいということではないが、こどもにもわかりやすい、ふるさとの歴史資料を含めたものになるとよい。それも図書館に全部やってほしいということではなく、隠れた郷土史家、研究している方に御協力いただくことができればいいと思う。

(会長)

- ・20 ページの生成A I については、図書館雑誌等でも、「図書館は生成A I をどのように活用できるか」という特集の中で、慶応義塾大学の先生が、生成A I について書かれた記事が出ている。人間が与える指示によって、文章、画像、音楽、動画などを生成する人工知能、となっていた。

- ・先週、NHKでも、生成A I について、山中教授が出演して特集をしていたが、あと5年後10年後には、予想がつかないほど進化していると言われている。活用について、先ほど安光委員が言われたが、県立図書館では、検討が進められている。全国的にどういうふうな導入傾向にあるのかについて、調べられるとよい。

- ・図書館員で生成A I をすでに活用しているような方は、おられるのか。チャレンジ

しておくといよい。今、定義にもあったが、文章だけではなくて生成A Iを活用して、画像等も、作成できるということなので、レファレンスでの活用も大事だが、事務的にも活用できるなどの検討も含めていただくとよい。例えば、21 ページの〔主な取組〕に、新たな広報活動というのが出てくる。18 ページ〔主な取組〕の3行目にも新たな広報活動。新たな広報活動というのは、SNS関係、生成A Iを使って、21 ページの広報活動で、例えばイベントの案内やチラシを、生成A Iを活用して作成できると思う。レファレンスでどう使うかは、この図書館雑誌の特集にも出ている。ただ、生成A Iは、誤情報が出てくる場合がある。学習したデータによっては、そういったことも起こるが、幻覚とかハルシネーションというふうに言うようだ。それを見分ける知識、レファレンスについての職員の能力向上も大切になる。職員については、この計画の中でも出ていた。例えば以前も言ったが、「子ども読書フェスティバル」のキャッチコピーも、生成A Iに問いかけると、さっと10項目ぐらい出てくるなど便利さがある。ぜひ活用してほしい。

#### 《事務局》

・今のところ計画の中にはレファレンスにおける活用だけなので、御意見をお聞きしたので、他のところに入れられるかどうかについても検討する。

#### （委員）

・高校生の読書という話が出たが、電子図書館の活用も考えられると思う。しかし、情報機器の長時間利用等の課題もあり、学校も踏み切れないところがあると思う。

・中学生や高校生は、文学を読むことが多いと思うが、その中でも人気があるのはどのジャンルなのか。最近では、SF小説があまりないのか。科学が追いついたからか。

・AI活用の話があったが、防府図書館の電子図書館は、児童・生徒にとって検索がしやすい。電子図書館によっては、「絵本」などのキーワードで探せないものもある。インターフェースの使いやすさも大事だと思った。

#### （副会長）

・先ほどの私の発言で、県立図書館と言ってしまったので、皆さんに山口県立山口図書館とされているかもしれないが、山口県立山口図書館の会議の際にも提案をしようと思うが、導入しているのは、他県なので、山口県立山口図書館が検討されているかどうかは、午後の会議でわかる。訂正する。

・教育長にお伝えしたいのは、予算について。AIや探索システムを導入するといったときに、お金、予算がアップすると思う。そういうのを入れたがために、人を減らすということになったら、本末転倒。書庫が満杯だから捨てるも、本末転倒になる。A Iを入れた、電子図書館サービス入れた、だから人はいらぬは違う。

・皆さんにお渡しした、西日本図書館学会山口支部報の編集後記に、司書の不要論に対して、AIは知らんぷりしながらも嘘をつくという記載もあるので、見極めが大事である。情報リテラシーを身につけ、A Iを使いこなせる仕事を誠実にこなせる司書が

必要なことを強調したい。司書の養成に目を向けることこそが、高度情報化社会において肝要であると書いた。先ほどの電子図書館サービスも、本当は紙の方がいいとは思いながら、時代の趨勢だから、随分譲っている。

・この前、テレビを見ていたら、若い子達は自分でChatGPTと対話している。声が出るかどうかは知らないが、親に相談するよりも、AIに相談するという子ばかりだった。たまたま、テレビ的に多かったのかもしれないが、学校の先生方も大変だなと思った。レポート作成などで、簡単にキーワードを入れていけば、作れてしまう。判断するのは人なので、情報リテラシー教育が図書館にも必要だと思う。

・司書の不要論とか、人員減らしとか、これを入れたから人を1人減らすとなったら本末転倒なので、両方必要ということで進めていってもらいたい。人にはもちろん人のよさがある。

(会長)

・生成AIも人間がいかに関活用するかにかかっている。心得ていただければ。

《事務局》

第3章、補足。今の素案には、写真等がほとんど入っていない。今後、入れていくので、もう少しページ数にボリュームがでる。

#### 第4章 目標指数

・現在は、入館者数と館外個人貸出者数、館外個人貸出冊数、学校支援図書貸出冊数の、4つを取り上げている。

・令和12年度の目標数値が、一応入れているが、これはコロナ前の、令和元年度の数値目標を入れている。コロナ禍で、この辺りの数値が底を打っており、現在上がっている最中なので、今後5年後の令和12年度には、コロナ前ぐらいの数値に戻って欲しい。

・素案の1ページ目の趣旨の中でも少し紹介したが、図書館は、電子図書館を導入している。その貸出、アクセス数をどう考えるかというところが決定していない。

すでに館外個人貸出冊数については、移動図書館車の貸出冊数が、もうすでに入っている状態なので、電子図書館についても、今後増えると予想されている。数値目標に入れておきたいと考えているが、どのように目標に盛り込むかについて、もう少し検討が必要である。12年度の目標数値が変更になることもあるので、御了承いただきたい。

・第2次計画には、登録率というのが入っていた。登録率というのは、毎年、登録者があるので、基本的に減少することがない数値。大きな変動があるとすれば、例えば10年間、20年間など期間を区切って、一切利用しない方の番号を、除籍すれば、減少することがあるが、基本的には増えるばかりの数値なので、今回は目標数値にしない。今後のシステムの更新時に、除籍も念頭にしているため。

## 5 章 計画の推進体制

《事務局》

・計画の推進体制は、前回と同じような形で進めて参りたい。そのまま踏襲していく予定。

(会長)

・目標指標について、御意見があれば、どうぞ。

(副会長)

・これでよいかと思うので、今から言うことが、ナンセンスだと思いながら話す。例えば、よく出ている 1 人当たりの貸出冊数、これはとても大変なことだし、でもそれを出す必要性は、自分の中では、どうかと思う。1 日の入館者数とか、今は、どんどん減ってきている。防府は増えているかもしれない。全国的に入館者数は、ちょっと減ると聞いている。ここは新しい図書館になったりしているので、増えていっているかもしれないが。この目標指標というのは、同じものがよいのか。比較するイメージで、5 年前と比較する意味でもか。

《事務局》

・その辺りが、御意見としていただきたいところ。前回の目標指数が一応これだったので、一旦これで入れておいた。今のように委員の皆様から、御意見があれば、ありがたい。1 日の入館者数と貸出者数があったほうが、よりわかりやすいということであれば、欄を追加できなくはない。今後、考えたい。

(副会長)

・ここは、揺れ動いているところ。1 冊とカウントするのに、赤ちゃんからお年寄りまで全部を範囲にするかという問題。生まれたばかりの子が来るのかとか、100 何歳の方が来られるのかと考えるのは、ナンセンスのような気がするけれども、他との比較で活用できるかなと思うので。数値目標を立てて、8 冊、もう 10 冊はなかなか難しい。8 冊にするのも難しい状況なので。大きな数字だったら比較をしようがないと思ったので、切り込む意味で、御検討いただければ。私ももう少し考える。

(会長)

・目標指標については、図書館は資料提供が本命なので、資料提供の数値は行政的にも大切な数値であり、予算的な効果が幾ら上がったかについても、関係する。この館外個人貸出冊数、学校支援の方は冊数でもいいのかと思うが、館外個人貸出冊数については、視聴覚資料とか電子図書館資料も含めるとすれば、点数の方がよい。

・防府の人口が、これから、どう推移するかという点もあるが、55 万点くらいには、目標値はおいていただきたい。

・山口県内の図書館の 1 人当たりの貸出冊数の平均が年間 5 点前後である。山口県は、人口に比べて図書館数が多いこともあり、県民 1 人当たりの年間貸出点数は、東

京、滋賀に次いで、大体3位から5位の間を推移している。コロナ前は、県民1人当たりの年間貸出点数が6点ぐらいだった。

・比較して、善し悪しを決めるというわけではないが、一応指標としては、全国的な目標値は、1人当たり5点程度にしていなければ。

## その他

(会長)

それでは、その他の連絡について、事務局から何かあれば。

《事務局》

- ・いろいろ御協議いただき、ありがとうございます。
- ・素案の方の39ページ以降の参考について、前回までの計画では、要綱や憲法等が入っていたが、第3次計画については、サービスの振興基本計画設置要綱、委員の名簿、策定の経過のみとしている。また、前回は用語の解説をそれぞれのページの下にあったが、今回第3次計画では用語の説明は、一か所にまとめて、参考資料にしているところが、変わった点。
- ・今後の日程については、本日、皆様からいただいた御意見と、今後出てくる御意見や気づきなどを踏まえて、修正加筆し、次の会議で計画案、パブリックコメント案をお示しする予定。
- ・次回は、パブリックコメント案について、委員の皆様の御意見を伺う。
- ・本日の会議の中で出てきた、皆様からの御意見をまとめたものについては、次回の会議の前に発送し、事前にご覧いただく予定。
- ・机上に、修正をまとめた資料「第3次防府市図書館サービス振興基本計画(素案)に係る修正箇所」があると思うが、それを入れ込んだもので作成する。
- ・それから、この素案の策定経過の中に、すでに次の会議を8月8日と記載しているが、他の計画との進捗状況に合わせて、調整を図る予定にしている。決まり次第、御案内したい。
- ・この計画案については、今後、教育委員会の定例会や市議会議員へも報告や説明をする。